



「社会学コース」と「メディアコース」 現代社会の諸課題に応える知的技法の修得

人間は一人で生きることができません。そして、人間が集まると社会が生まれます。その人間と社会をめぐるさまざまな営みが、社会学という学問の対象です。とはいえ、人間も社会も常に変化しています。インターネットの普及、グローバル化が進み人々は国境を越えて移動、家族や夫婦の形も急速に変わりつつあります。社会学専攻では、「社会学コース」と「メディアコース」の2コースにおいて、社会学、メディア論、国際社会論をはじめ、隣接する人文・社会諸科学の成果を学ぶことによって、現代社会の諸問題を系統的に認識・解明する高度な学術研究の遂行能力を有する人材の育成を目指します。

「社会学コース」では、院生が調査研究を行う中心的な土台に社会学を据え、その他の社会科学諸分野の知見も取り入れながら多様な社会問題に取り組む研究者を養成します。「社会学コース」は多摩と市ヶ谷の2キャンパスで昼間授業を開講します。「メディアコース」では、メディア分野の高度専門職業人や研究者に求められる、メディア理論と調査法、メディアの歴史と思想、そして調査報道やメディアテクノロジー等の実践までを学ぶことができます。「メディアコース」は平日夜と土曜日に市ヶ谷キャンパスで授業を開講し、社会人が学びやすい環境を用意します。

社会学専攻の修了生は、大学など研究機関をはじめ、国内外の様々なメディア企業・国際機関・一般企業で活躍しています。

アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)

社会学研究科では、社会学、隣接する社会科学、人文諸科学の分野に強い学問的関心を持つ、つぎのような人材を広く求める。

1. 社会学、メディア論、国際社会論の領域で、社会の諸問題をめぐって独立した研究能力を形成する意欲のある人材。
2. 社会についての豊かで深い学識を備え、メディア企業・国際機関・一般企業などで働く専門的職業人を目指す人材。
3. 社会人としての経験をもとに、社会をめぐる豊かで深い学識を形成し、実践的に課題の解決に向かおうとする人材。

カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)

社会学研究科における教育研究は、現代社会の諸問題をそのなかで生きる人間のあり方に注目して解明し、目標にすべき価値と多様な社会生活の場でそれを実現する方法を探究することを、基本的な特徴としている。教育課程の編成と実施にあたっては、社会学を基本としながら、それに隣接する社会科学、人文諸科学の科目を配することによって、現代社会の諸問題と、そのなかで生きる人間のあり方に注目した教育研究を進める。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

社会学研究科は、所定の単位の修得、および学位論文の審査によって、つぎに示す能力を有すると認められた者にたいして、修士課程にあっては「修士(社会学)」の、博士後期課程にあっては「博士(社会学)」の学位を授与する。

社会学、メディア論、国際社会論はもとより、隣接する社会科学、人文諸科学の成果に基づいて現代社会の諸問題をみずからの研究課題として系統的に認識、解明し、それに実践的に向き合う高度な学術研究の遂行能力を有する。

研究室紹介

津田 正太郎 教授

メディアの役割や限界を理解するために、
その歴史的、社会的文脈を探る

プロパガンダはなぜ「失敗」するのか

近代化または現代化の過程において、メディアは重要な役割を果たしてきました。国民形成や戦争プロパガンダの手段として、メディアはいまも活用され続けています。ただしそれは、メディアが人びとを自由自在に操れるということではありません。様々な歴史的、社会的要因により、統合や説得の失敗もまた頻繁に生じます。つまり、メディアの内容や技術だけをみるのでは不十分なであり、その役割や限界を理解するためには社会の文脈にも目を向ける必要があるのです。本研究科でメディアを学ぶ人には、そうした幅広い問題関心をもって研究に取り組んでほしいと思います。



柱となる2コース

- ・2つのコースにはそれぞれ基礎演習を入り口に個別領域のテーマにつながる講義・演習があります。
- ・これらの科目の多くは半期2単位科目ですから、修士課程2年間の間に計画的に履修できます。
- ・指導教員による論文指導のほか、総合演習を通じて複数の教員が修士論文作成に向けてアドバイスします。

社会学コース

「社会学基礎演習」で社会学理論・社会問題の基本概念を修得したあと、「理論社会学」でより深く個別の社会学理論を学びます。また、環境、家族、階層などに関する社会学研究の広がりを選び、実習を通じ社会調査の方法論を身に付けてもらいます。

社会学基礎演習

社会学の研究法に関する
基本的知識の修得

理論的基礎

理論社会学

(ミクロ・マクロアプローチ、
学説史、認識論的基礎)

個別領域

社会学特殊研究

(都市、産業、労働、家族、環境、
福祉、医療、文化などに関する
社会学研究)

方法

統計分析法

社会調査実習

調査研究法

質的資料分析法

専門社会調査士資格(社)社会調査協会認定)が取得できます。

ただし、社会調査士資格未取得の場合には、他専攻科目として開講されている科目を履修する必要があります。

メディアコース

「メディア社会学基礎演習」では基礎的なメディアの理論と歴史を学び、「メディア理論」で歴史・倫理・テクノロジーに関する理解を深めていきます。「メディア特殊研究」では広告、ソーシャルメディア、メディア文化などの個別領域を研究するとともに、「取材文章実習」、「調査報道実習」などでメディア分野の実践知を高めていきます。

メディア社会学 基礎演習

基礎的なメディアの理論と歴史、
メディア産業論、
オーディエンス論の修得

理論

メディア理論

(歴史・倫理・テクノロジー)

個別領域

メディア特殊研究

(広告、知的財産、メディア経営、
ソーシャルメディア、メディア
文化)

方法

取材文章実習

調査報道実習

オーディエンス調査実習

学生・修了生の声

兼子 諭 2018年9月 博士学位取得

研究を深め、
大変ながらも有意義な学究生活

私の研究

コミュニティや市民社会のあり方について学修し、将来的にも社会的な研究に従事したいと考えたことから大学院に進学しました。現在は、法政大学社会学部の兼任講師を勤めています。大学院生時代を振り返ると社会学だけでなく、社会科学や社会思想、哲学についての研究にも努めていました。法政大学大学院では、現代社会における諸現象に関して、理論だけでなく実証も視野に入れているため両面からの研究アプローチが可能であり、研究を深めるには適切な環境が整っています。大変ながらも楽しく、有意義な学究生活を送ることができました。

研究テーマ 社会学理論 文化社会学 市民社会学



| 専任教員 | 専攻 | 研究テーマ | 主な担当科目 |
|--------------|-----------------------------|---|---|
| 青木 貞茂 教授 | 広告論、ブランド論 | 効果的なブランド広告表現の開発・立案方法について | メディア特殊研究1 |
| 荒井 容子 教授 | 社会教育学 | 社会教育実践研究、社会教育法制度研究、成人教育・社会教育運動研究、公民館研究 | 社会学特殊研究4 |
| 稲増 龍夫 教授 | メディア文化論 | 現代メディア文化とコンテンツ産業の分析 | メディア社会学特殊研究2 |
| 宇野 斉 教授 | 組織行動科学、社会ネットワーク論、経営学 | 社会ネットワーク論、組織論、意思決定論 | 学際研究4 |
| 大崎 雄二 教授 | 現代中国における国民統合・民族政策 | 現代中国（東アジア）地域研究 | 社会科学研究法1/2 |
| 岡野内 正 教授 | 社会理論、国際政治経済学、平和学、国際開発学、中東研究 | 国際社会の人権・平和問題とベーシック・インカム研究 | 理論社会学4 |
| 金井 明人 教授 | 認知科学・人工知能と映像の修辞学 | 映像に関する情報物語論 | 学際研究2 |
| 金原 瑞人 教授 | 英語圏のエスニック文化 | 創作（クリエイティブライティング）、小説や詩の創作を通じて、表現力の向上を図る | ※今年度は、特定の科目を担当しません |
| 上林 千恵子 教授 | 産業社会学 | 日本の移民政策：外国人労働者と高度技能移民の受け入れ | 社会学特殊研究1、外国書講読1/2(英語) |
| 菊澤 佐江子 教授 | 家族社会学 | 家族とライフコースに関する計量社会学的研究 | 社会学特殊研究3 |
| 小林 直毅 教授 | メディア文化研究、テレビ・アーカイブ研究 | メディア環境における「記録と記憶」の研究 | メディア社会学基礎演習2、メディア理論1、社会学原典講読(修士)、社会学原典研究2(博士) |
| 斎藤 友里子 教授 | 理論社会学・数理社会学・社会意識論 | ただしぎの社会学 | 統計分析法(修士)、社会調査法2(博士) |
| 佐藤 成基 教授 | 社会学理論、比較ナショナリズム研究 | ナショナリズムと国民国家の歴史と現在(ドイツを中心に) | 理論社会学3 |
| 愼 蒼宇 教授 | 近現代史 | 朝鮮近現代史、日朝関係史、植民地研究、在日朝鮮人史研究 | ※今年度は、特定の科目を担当しません |
| 鈴木 智之 教授 | 社会学理論、文化社会学 | 物語言説の社会学的分析。特に自己と他者をめぐる語りとその社会的条件の研究 | 理論社会学2 |
| 鈴木 宗徳 教授 | 社会学史、理論社会学 | 現代における批判的社会理論の課題 | 社会学基礎演習2、理論社会学5、外国書講読1/2(英語) |
| 田嶋 淳子 教授 | 国際社会学、移民・エスニシティ研究 | 中国系移住者をめぐる文化的市民権と移住二世世代 | 社会学特殊研究1、社会調査実習 |
| 津田 正太郎 教授 | マスコミュニケーション論、政治社会学 | 近現代社会におけるメディアの役割に関する政治社会学的研究 | メディア社会学基礎演習1/3 |
| 徳安 彰 教授 | 社会システム論 | 社会現象を人間と社会システムの2つの視点から見る | 理論社会学基礎1/2、社会学原典講読(修士)、社会学原典研究1(博士) |
| 樋口 明彦 教授 | コミュニティ政策論 | 社会的排除/社会的包摂、若者論、NPO/NGO、働き方の多様化 | 社会学特殊研究2 |
| 平塚 眞樹 教授 | 教育学、若年移行期研究 | 若者支援におけるyouthworkとsocial pedagogyの意味 | ※今年度は、特定の科目を担当しません |
| 藤田 真文 教授 | コミュニケーション論、メディア論 | マス・メディア(テレビ)のテキスト(内容)分析 | ※今年度は、特定の科目を担当しません |
| 二村 まどか 教授 | 国際関係論、平和構築論 | 紛争後の社会における正義追求のあり方について(移行期正義・国際刑事裁判) | 学際研究1 |
| 別府 三奈子 教授 | ジャーナリズム規範の国際比較研究、写真研究 | 負の遺産とジャーナリズムの記録の連関に関する調査と分析 | メディア理論3 |
| 堀川 三郎 教授 | 環境社会学、都市社会学 | 歴史的環境保存の日米比較、まちづくり、住民運動、公害被害地の追跡調査 | 社会学特殊研究3 |

| 専任教員 | 専攻 | 研究テーマ | 主な担当科目 |
|---------------|---------------------|---|------------------------|
| 三井 さよ 教授 | 臨床社会学、ケア・支援論 | 医療・福祉をめぐる社会問題への相互行為論的アプローチ | 質的資料分析法(修士)、社会調査法3(博士) |
| 吉村 真子 教授 | アジア研究、東南アジア地域研究 | 国際社会 / 東南アジア(マレーシア)地域研究 | ※今年度は、特定の科目を担当しません |
| 堅田 香緒里 准教授 | 社会福祉学、福祉社会学 | 貧困研究、批判的社会政策論、ジェンダー・スタディーズ | 社会学特殊研究2 |
| 高 美智 准教授 | 映画・表象文化研究 | 日本映画におけるマイノリティ、ナショナリズム、多文化、ジェンダー表象、アダプテーション映画 | メディア理論2 |
| 白田 秀彰 准教授 | 情報法、知的財産権法 | 情報化社会と情報発信についての研究 | メディア特殊研究3 |
| 鈴木 智道 准教授 | 歴史社会学、教育社会学 | 教育の歴史社会学、歴史社会学方法論 | 社会学基礎演習1/3、社会学特殊研究4 |
| 多喜 弘文 准教授 | 社会階層論、教育社会学、比較社会学 | 教育・労働の格差に関する比較社会学的研究 | 理論社会学1 |
| 土倉 英志 准教授 | 社会心理学、認知科学、質的心理学 | 創造性、経験による学習・創造による学習、コミュニティデザイン | 外国書講読1/2(英語) |
| 土橋 臣吾 准教授 | メディア論、コミュニケーション論 | デジタルメディアの実践的研究 | オーディエンス調査実習 |
| 藤代 裕之 准教授 | ジャーナリズム論、ソーシャルメディア論 | ソーシャルメディア時代のジャーナリズムやメディアのあり方 / Entrepreneurial Journalism | メディア特殊研究4 |
| 諸上 茂光 准教授 | 消費者心理学、計算論的脳科学 | 市場における消費者の心理及び行動の分析とモデル化 | メディア社会学特殊研究1 |
| 橋爪 絢子 専任講師 | ユーザ工学、ユーザ中心設計 | 実文脈におけるユーザの状況や行動の調査と分析 | ※今年度は、特定の科目を担当しません |

[2019年度] ※年度により授業を持たない場合があります。

設置科目 [修士課程]

社会学基礎演習1～3(各2)
 メディア社会学基礎演習1～3(各2)
 理論社会学1～5(各2)
 メディア理論1～5(各2)
 理論社会学基礎1/2(各2)
 社会学特殊研究1～6(各2)
 メディア特殊研究1～4(各2)
 メディア社会学特殊研究1/2(各2)
 学際研究1～5(各2)
 統計分析法(2)
 社会調査実習(4)
 調査研究法(2)
 質的資料分析法(2)
 取材文章実習(2)
 調査報道実習1/2(各2)
 オーディエンス調査実習(2)
 メディアテクノロジー実習(2)
 社会科学研究法1/2(各2)
 外国書講読1/2(各2)
 社会学原典講読(2)
 論文指導1/2(各2)

[2019年度] ※開講科目は年度により異なります。() = 単位数

設置科目 [博士後期課程]

社会学総合演習A/B(各2)
 社会学研究1～3(各2)
 社会調査法1～3(各2)
 社会学原典研究1/2(各2)
 博士論文指導ⅠA/B(各2)
 博士論文指導ⅡA/B(各2)
 博士論文指導ⅢA/B(各2)

修士生の研究テーマ

- ・みえにくい問題経験をやりくりするー「生きづらさ」を手掛かりとした調査から
- ・人口を統制することー日本社会における人口概念の展開ー
- ・リチャード・セネットにおける「公共的なもの」の概念
- ・今日において就学運動を振り返る意義ーその「関係」親/「ニーズ」親からの検討ー
- ・非正規雇用の基幹化と働き方への影響ー劣悪な働き方の再生産メカニズムー
- ・日本における外国人の社会統合に関する研究ー自治体レベルの取り組みに着目してー
- ・ニューカマーズとしての中国系移住者のエスニック・コミュニティに関する一考察
- ・核の表象と経験、そして記憶ーテレビの記録と技術としてのアーカイヴー
- ・「聖地」奈良への勤員ー“建国神話の体現者たち”ー
- ・本屋大賞のブランディング分析
- ・日本の新聞における中国の環境問題報道
- ・日本のテレビにおける「八月ジャーナリズム」ー戦後70年を中心にー
- ・原発震災と「3月ジャーナリズム」の課題と可能性
- ・「普通である」ための技法ーセクマイ・コミュニティと「当事者である/ない」ことをめぐってー
- ・近代朝鮮における教育改革と書堂(1876-1905)ーその重層的把握への試みー
- ・内モンゴル農村地域におけるモンゴル族男性の結婚難問題に関する研究ー通遼市ホルテン左翼後旗の7つの村を中心にー